

技術戦略

OKIは、144年にわたり培ってきた強みを活かし、社会インフラの「止まらない／止めない」を実現する高度な技術力を有しています。このコアコンピタンスを「タフネス」と位置づけ、さまざまな活動の基盤としています。海外の拠点を通じて、スタートアップや研究機関と連携し、多様な先端技術を積極的に取り入れることで、新たな顧客価値やビジネスの創出につなげています。こうした技術連携を通じて、OKIはさらなる価値創造を推進しています。

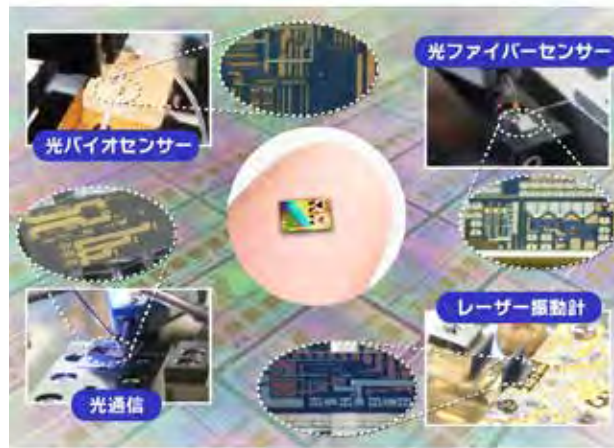
グローバルオープンイノベーション、現地共創による技術力強化

OKIは、最先端スタートアップ技術の取り込みとコア技術の強化という2つの軸で、グローバルオープンイノベーションを推進しています。

米国のシリコンバレーでは、世界最先端のスタートアップからOKIの技術で不足しているピースを発掘しています。OKIの製品・サービスや既存技術と組み合わせることで、顧客価値の向上や新たなビジネスチャンスの創出につなげています。

ドイツのベルリンでは、EUの有力な研究機関との共同研究や、光技術クラスター、オプトメカトロニクス関連企業との連携を通じて、フォトニクス技術の強化や先進エッジデバイスの社会実装に着手し、OKIのコア技術そのものの強化と高度化を加速しています。

フォトニクス技術では、個別の光部品を光ファイバーで配線して実現していた光回路を、半導体の微細加工技術を用いてシリコン基板上に統合・集積回路化し、光機能モジュールを超小型化・低コスト化します。これにより、通信分野に限らず、インフラ監視から医療分野まで幅広く適用できる、超小型光センサーチップの開発を実現します。



超小型光集積回路チップ実装例

生成AI活用による次世代の価値創出

OKIは、AI技術を積極的に業務へ導入し、社内の業務効率化や新たな価値の創出に取り組んでいます。長年培ってきたノウハウや豊富な業務データを、生成AIの活用（OKI AI Chatシステム）により分析・応用することで、迅速かつ的確な意思決定や複雑な課題の解決を実現しています。

今後もOKIは、移動体の分析やエッジ機器の稼働データなどへ生成AIをはじめとする先進技術を活用してエッジプラットフォームの強化を推進し、技術力と創造力でお客様や社会の期待に応えていきます。

詳細は、以下Webサイトをご参照ください。
https://www.oki.com/jp/otr/2024/n243/html/otr243_r24.html

エッジプラットフォームの具現化の推進

OKIは、多様なIoT・エッジデバイスのデータを一元管理・連携する「エッジプラットフォーム」の構築により、社会インフラの現場でのデータ活用を高度化することに取り組んでいます。

これまで防災情報システム「DPS Core」、次世代交通システム「LocoMobi 2.0」、インフラモニタリングサービス「monifi」など、各分野で個別最適化されたソリューションを展開してきましたが、エッジプラットフォームではこれらのサービスが持つデータを連携し、防災・交通・インフラ監視など幅広い分野で新たな価値創出を目指しています。

このプラットフォームを共通基盤に、さまざまなセンサーデータをリアルタイムに収集、分析し、アクションプランを自動生成することで、現場を遠隔から効率的に監視・制御するリモートDXプラットフォーム技術「REMOWAY」を提供するなど、現場DXの推進につなげています。

今後、既存サービスで開発した機能群を共有化することで異業種間のデータ連携を加速し、現場革新と社会課題解決を推進していきます。

